

「阪神大震災」～「水無瀬駒」～「琵琶湖比良八荒」を幻想的に描く

「朗読コンサート」『桜譜』

令和6年1月17日(水) 15時～16時30分

(参加無料・事前予約不要)

ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター
(大津市におの浜1-1-20)

金子 瑞穂 著 将棋小説「桜譜」 「関蟬丸の御歌」
朗読 『出張ROUDOKU 川野 裕満子／高橋 ちこ』
伴奏 ヘルマンハープ 山本 泰子
書 小西 津弥子

【将棋長編小説「桜譜」】 将棋には、人智を超えた神がいる。

神の音が聞こえる。水無瀬駒が奏でる神の音が……。震災で両親を失い、将棋の師の家庭で育てられた澤一樹は恋を知り、兄弟子と師と戦い、何もかも失って蘇る。

名人戦は桜の頃に開かれる。桜の蕾がほころんでやがて満開になり、それが乱舞していく。対局が進むと共に、桜の花びらは散り、そして舞った。

「桜譜」というのは古(いにしえ)の和歌にしたためられていそうな古風な言葉だ。棋譜が幾枚も幾枚も舞い散っていくさまを表している。桜は、そのようなことも知らぬげに、ただいつまでも舞い続けている。そしてその中で、新名人が決定される。

阪神大震災の神戸に始まり、水無瀬神宮(水無瀬駒)～琵琶湖「比良八荒」まで舞台は大きく変遷していく。人間と将棋のドラマが交錯する感動の長編小説。(文芸社 700円＋税)



【関連パネル展示】 1/14(日)～1/20(土)17時まで

藤井聡太八冠達成／どうぶつ将棋／どうぶつ詰将棋／水無瀬駒

(後援 大津市 大津市教育委員会)